

あとがき

大変遅れましたが、本年度最初のVol.12 No.1(25号)をお届けします。今年の夏は東日本が渇水で、特に利根川水系がひどく、深刻な状況にならなければよいかと心配しています。

総選挙を控えて、最近某党幹部が「民」主導型社会の形成を提唱していた。多くの日本人は、どのように受けとめたのか非常に興味がある。確かに、日本近代史をひもとくまでもなく、腎不全対策などをやっていると現在の日本が「官」主導型社会であり、官民ともに日本人がそれにいかに慣れ親しんできたかも良く分かる。よって、「民」主導型社会への転換も簡単ではなかろうと思う。

もし転換できれば、インフォームドコンセントも容易になるだろうし、脳死臓器移植の実施についても“国民的合意に待つ”などという内容空疎な発想もなくなると思うが。

(広報委員長 奥田健二)